

川の大掃除、一緒にどうですか？

本庁支部 香川 貴史*

一午前4時。真っ暗な部屋に時刻を知らせる音になる。時間だ。手探りで明かりをつけ、携帯を確認する。やはり着信はない。決行のようだ。用意していた服に袖を通すと、車の鍵をとり外へ出た。降り続けている雨は途中で豪雨にかわり、決意をにぶらせる。昨日の時点で連絡がない場合は決行する。そういう約束だった。が、本当にやれるのだろうか、もしかしたら……。その期待は、まだ暗い集合場所に着くやいなや打ち砕かれた。

「お疲れ様です。あいにくの天気ですが、はりきって行きましょう。」その声とともに渡されたのは、軍手とゴミ袋だった。

と、いかにも字数を稼ぐように書き始めたのは、とある河川の清掃活動に参加した朝のことです。

こんなことを書いていると、よくこういう活動に参加していると誤解されるかもしれませんが、実はこれまで河川の清掃はもとより、ボランティア活動自体にほとんど参加したことがありませんでした。おそらくこれを読んでいる皆さんのほうが、よほど経験豊富だと思います。ボランティアという言葉は辞書によると、「自発的に事業に参加する人。特に社会事業活動に無報酬で参加する人。」のことだそうです。自分の場合、職場が変わった（今年から河川課に来ました）のをきっかけに、今年何度か河川の清掃活動に参加する機会がありましたが、そういう意味では、自発的というより偶発的という程度（けっして強制的ではないですよ）。今回、福建の原稿に何でもいいから書いてね（こっちは強制的かも）と、やさしく言われましたので、こんなボランティア未満の初心者ですが、河川の清掃活動に参加したりしての感想でも書かせてもらおうと思います。

さて、今年初めて清掃活動に参加したのは「有明海クリーンアップ作戦」の一環として、筑後川下流の漁港付近の清掃活動でした。有明海をきれいにしようと、佐賀県、長崎県、熊本県、福岡県の漁業関係者、国、自治体職員、ボランティア団体等が参加し、毎年実施されているものです。頭の文章は、この活動に参加した日の朝のことですが、早朝に家を出て、集合場所まで車で2時間。それからさらにバスで1時間の行程。正直、何事も勉強と手を上げるまではよかったの



ですが、日が近づくにつれ気が重くなっていました。しかも当日は雨。かなりモチベーションは低い状態で到着です。現地にはすでに100人近くの参加者が集まっています。自分も周りにみならい、とりあえずレインコートを着込み、いよいよスタートです。最初は何となく他の参加者にまじってぼちぼちやっていましたが、いつの間にか真剣になって、気づいてみたら、あっという間に終了時間でした。

次に参加したのは、福岡県と大分県の県境にある山国川の河川清掃です。これも毎年、国、自治体、地域の方々が一緒に河川敷を清掃しているそうです。当日の早朝出発は変わらないものの、天気は晴天。前回とは違い、参加した地元の方と話をする余裕もありました。そのとき初めてボランティアに参加したという方が、こんなことを言っていました。「始まる前はそんなにやる気があったわけじゃないけど、まわりがどんどんごみを拾っているのを見ると、競争じゃないんだけど、少し不安になるし、思わずがんばっちゃうなあ。でも、途中からごみ拾うのが楽しくなってきた、気づいたら袋いっぱい拾ってたよ。拾えたのもよかったけど、それだけ確実に川がきれいになったと思ったら嬉しいねえ。」それを聞いて、前回のことを思い出しながら大きく頷いてしまいました。あの日自分も同じような気持ちで、思わず嬉しくなっていたからです。まあ、傍から見たら、ずぶ濡れでゴミ袋持って微笑んでいる姿はどう思われていたかわかりませんが。

いずれにせよ、活動に参加する前は、そういうのはそのことが楽しいと思える人たちがやることで、自分とは違う人たちがすることで、どこか別の話で……。と思っていたのに、実際は誰でもできるし、その中に楽しさや嬉しさがいっぱいあるじゃないかと、今さらながら気づかされました。

そんなこんなで、ってよくわからないつなぎですが、実はもうひとつ皆さんにお教えしたい活動があります。そう、あれです。「ふくおか川の大掃除」です。……。あれっ？「ふくおか川の大掃除」です。……。えーっと、ほとんどの皆さんはご存知でしょうが、万が一、万に一つ、知らない方がおられるかも知れませんが、簡単にご紹介しましょう。「ふくおか川の大掃除」とは、昨年度より始まり、今年度、第2回目が開催された、県下一斉の河川清掃活動です。県内の河川愛護団体の方々を中心に、今年度も数千人の参加者がありました。毎年10月に一斉に川の大掃除をすることで、活動団体同士や地域の連携を深め、一般の方々にもこういう活動や、それを行っている団体について、大いに知ってもらおうじゃないかと開催されています。今年は自分も、前原の雷山川での清掃活動に参加させていただきました。当日は、地元の河川愛護団体や、NPO、地域の方々、子供たちと、大変活気がありました。子供たちも、「あっちに蛇の抜け殻があるぞっ！



こっちに変な虫がいるぞっ！」と大活躍です。地元の愛護団体の方々も、「いつもきれいにしているから、あんまりごみがなかろう。すまんねえ。」といいながら大変嬉しそうです。昔、川で遊んだ話など聞いていると、本当に川を大切にしてくれてるんだなあと、頭がさがる思いでした。県内には現在届出されているだけで、約290あまりの河川愛護団体が活動しています。それだけ多くの方が地域、地域で川を大切にしてくれているんだと考えながら、ふと思いました。それぞれの地域で、それぞれの川があり、地域ごと、人ごとに無数の川への思い入れや、イメージがあるのでしょうか。今、土木として河川を扱う場合に「多自然川づくり」と言われています。もっとも、人工的に自然を作るというのは変な話です。自分的には、手を加えるのは最小限にしつつ、本来あるべき姿を守り、共存していく方法なのかなと思っています。しかし、本来あるべき姿とは？自然ってなんだろう？と、考えてしまいます。人それぞれ自分が育った環境や何かで、持っている川のイメージは違うと思います。土台となるイメージはあるかもしれませんが、それだけでは十分ではないでしょう。できれば、知識としての技術はもちろん、これからいろんなイメージをもって、地域の思いをうけとめることができるようになります。そういう意味でも、いろんな地域でいろんな川を見て、さらにそこで地元の方の思いを聞くことができる、河川のボランティア活動への参加はいい機会だと思っています。

なんだか清掃活動に参加した感想を書くと言っておきながら、感想ともなんともつかない文章をだらだら書いてしまいました。いまさら何を言ってるのかと思われた方もおられると思いますが、もし以前の自分のように、ボランティア活動なんて自分とは別の世界と感じている方がいらっしゃいましたら、一度これをきっかけに参加してみてもどうでしょうか。とはいえ、いつ何処にいけばいいか難しいものです。そんなときこそ、「ふくおか川の大掃除」、「ふくおか川の大掃除」です。今年もやります。興味があればいつでもご相談くださいませ。



そうそう、山国川の河川清掃からの帰り道、満開の秋桜畑がありました。おもわずお弁当をひろげ、のんびりと癒されましたよ。世知辛い世の中、ストレスフルなあなたにも、川の大掃除はいいかもしれません。それではまた、どこかの河川でお会いできるのを楽しみにしています。

＊土木部河川課管理係